

中 学 校

平 成 5 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

社 会

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 5 年 度

教 育 研 究 員 名 簿 (社 会)

	区市町村名	学 校 名	氏 名
地 理 的 分 野	新 宿	四 谷 第 一 中 学 校	◎ 櫻 岡 章 雄
	江 東	第 四 砂 町 中 学 校	日 倉 孝 弘
	品 川	伊 藤 中 学 校	小 泉 和 博
	大 田	矢 口 中 学 校	名 古 屋 瑞 穂
	足 立	鹿 浜 中 学 校	福 井 勝 己
	八 王 子	別 所 中 学 校	高 橋 洋 文
	立 川	立 川 第 八 中 学 校	中 野 政 治
	清 瀬	清 瀬 第 二 中 学 校	加 藤 進
公 民 的 分 野	港	城 南 中 学 校	小 林 誠
	文 京	第 四 中 学 校	倉 橋 保 恵
	台 東	上 野 中 学 校	富 田 好 彦
	板 橋	板 橋 第 四 中 学 校	羽 根 繁 一
	江 戸 川	松 江 第 三 中 学 校	◎ 高 橋 良 久
	八 王 子	梶 田 中 学 校	瀬 沼 徹
	武 蔵 野	第 一 中 学 校	渡 部 博
	青 梅	新 町 中 学 校	玉 田 博

◎ 世話人

担 当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 三 島 紀 人

目 次

I 主題設定の理由	2
II 地理的分野 「主体的な学習を促す指導と評価の工夫」 －「様々な地域」の中華人民共和国の学習を通して－	
1 主題設定の理由	3
2 研究のねらいと方法	4
3 研究の内容 (1) 指導計画・評価計画の作成に当たって	4
(2) 単元の構成	5
(3) 指導計画・評価計画	6
(4) 学習指導案	10
(5) 研究授業の考察	12
4 研究のまとめと今後の課題	13
III 公民的分野 「生徒の思考力・判断力を育て、主体的な学習活動を促す指導法の工夫」 － ディベートによる学習を取り入れた「消費者の保護」を通して－	
1 主題設定の理由	14
2 研究のねらいと方法	15
3 指導内容 (1) 指導計画	16
(2) 指導内容の構成図	16
4 研究授業	17
5 授業の考察	21
6 研究のまとめと今後の課題	24

I 主題設定の理由

現在、国際化、情報化、産業構造の変化、高齢化などの社会の変化は激しく、学校で身に付けた知識だけでは、人生の各段階で十分に自己実現を図っていくことは困難になってきている。こうしたとき、生涯学習の立場に立ち、社会の変化に対して、主体的に対応し、学び続ける意欲を育てることが求められている。

平成元年に改訂された学習指導要領は、このような社会の要請に応え、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視するとともに、国民として必要な基礎的・基本的な内容を身に付けさせ、個性を生かす教育の充実を図ることを基本方針としている。また、平成3年に改訂された生徒指導要録では、知識偏重の教育を改めるとともに、意欲・関心・態度や思考力、判断力、表現力などを重視した教育の推進を求めて、新しい学力観を示している。

また、中学生になると、知的好奇心や探究心が高まり、社会的事象に対しても、自分なりに判断できるようになる。彼らは知的エネルギーを内在しているといえる。しかし、従来行われてきた授業の多くは知識理解が中心で、教師主導の画一的な一斉授業になりがちであった。このような授業では、生徒の知的エネルギーを発揮させたり、学び続ける意欲を育てたりする点では、やや不十分であった。

これからの中学校社会科の学習指導は、上述のような社会の期待や新しい学力観を踏まえ、従来の授業の反省の上に立って検討することが必要である。具体的には、基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実、自己教育力の育成を具現化することである。言い換えれば、適切な課題を設けて行う学習や作業的、体験的学習を充実し、生徒の主体的な学習をいかに推進するかということである。

そこで、本研究においては、生徒の主体的な活動を促すために、「適切な課題を設けて行う学習」や「ディベートによる学習」を取り入れた指導法の工夫や生徒の意欲を高める評価の工夫に取り組んだ。

以上のような点から、上記の研究主題を設定した。なお、研究に当たっては、地理的分野と公民的分野の二つのグループに分かれ、共通主題に基づいてそれぞれに分野別研究主題を設定し研究を行った。

Ⅱ 地理的分野

主体的な学習を促す指導と評価の工夫

－「様々な地域」の中華人民共和国の学習を通して－

1 主題設定の理由

国際化、情報化などの急激な社会の変化に伴い、生徒が自ら学ぶ意欲と主体的に対応する能力を身に付けることが、ますます重要になっている。そのため、学校教育においては基礎・基本を重視するとともに、自ら進んで考え、判断し、表現するなどの能力の育成を図ることが大切である。したがって、これからはこうした諸能力を育成するための指導や評価の工夫が必要になると考えた。

地理分科会では地理的分野の基礎・基本は「地理的な見方・考え方」、すなわち地理的事象に関心を持ち、その意味や変化を考える力ととらえた。このこととともに、学習指導要領の地理的分野の目標を踏まえて、「主体的な学習を促す指導と評価の工夫」を主題に設定し、生徒が自ら進んで学習する指導内容・方法の改善や評価の工夫を図った。

本分科会では自ら進んで行う学習を主体的な学習ととらえ、生徒が学習活動の中心になるような学習内容や学習方法の工夫が大切と考えた。その際、生徒が関心や意欲を高めるとともに、主体的に学習にかかわることができるような配慮が必要である。例えば、作業的な学習を通して、生徒に「やろう」という気持ちや、他の生徒に働きかけようとする気持ちを起こせることができる学習活動の工夫などが考えられる。

評価については、観点別学習状況の評価を基本とした評価をしたり、学習目標に照らした生徒の実現状況を評価したりするなど、学習指導要領の目指す新しい学力観に基づく評価が十分にできるようなものにすることが大切である。また、生徒の良さや可能性を積極的に評価することも大切である。

以上のことをふまえて、地理的分科会では学習指導要領の地理的分野の内容(1)、イの「様々な地域」を扱うことにした。「様々な地域」の学習においては、ある地域や国を学ぶことによって世界の他の地域や国を学ぶ学び方を身に付けることが大切である。ここでは、中華人民共和国（人口と民族）、アメリカ合衆国（大規模な農業と工業）、西アフリカ（発展途上国、環境と開発）、EC（新しい共同体、交通）の四つの地域や国を取り上げ、その中から学習単元として「中華人民共和国」を教材化した。理由は、中華人民共和国を人口と民族の視点から学ぶことによってアメリカ合衆国、ロシア連邦、インドなどの国の特色が明確になると同時に、我が国の国土認識を深める上で効果的であると考えたからである。

2 研究のねらいと方法

(1) 研究のねらい

- ア 自ら課題を設けて追究していく学習や作業的な学習を取り入れることによって、生徒の主体的な学習を促す指導方法を工夫する。
- イ 「様々な地域」で中国を取り上げ、「人口と民族」に焦点をあてた学習内容を中心に単元構成を工夫し教材化を図る。
- ウ 主体的な学習を促すために四つの観点別学習状況の評価を積極的に取り入れ、1 単位時間及び単元の指導計画に基づき、評価方法・内容の工夫をする。

(2) 研究の方法

上記のねらいを達成するために以下の方法で研究を進める。

- ア 生徒の実態を把握するために中国についての事前アンケートを実施する。
- イ 中国の巨大な人口と民族に焦点をあて、学習内容を再構成し、指導計画を作成する。
- ウ 指導計画の各時の目標に基づき、それぞれの評価の観点を分析し、評価計画を作成する。
- エ 研究授業を行い、研究内容を検証する。
- オ 生徒の変容を知るため、中国についての事後アンケートを実施する。

(3) 配慮する点

- ア 中国の学習を通して、他の地域や国の特色が明確になるように内容を構成するとともに、生徒の発達段階を十分に考慮する。
- イ 生徒の興味や疑問を引き出すことのできる資料を提示するとともに、課題解決学習に生かせるように指導方法を工夫する。
- ウ 課題を追究する段階において、生徒自らが資料を選択し活用する学習活動を重視し、適切な指示・助言を行う。
- エ 新しい学力観に基づいた観点別学習状況の評価を積極的に取り入れるように配慮する。

3 研究の内容

- (1) 指導計画・評価計画の作成に当たって……本研究では、指導と評価の一体化を図るため指導計画と評価計画を一つにした表（以下「計画表」と呼ぶ）を作成した。

ア 指導と評価の一体化

指導目標を達成するためには、指導と評価が一体として行われることが重要である。

そこで、一目で指導と評価が分かるこの必要性から「計画表」を作成した。また、この

「計画表」を活用するに当たっては、1単位時間ごとに四つの観点についてそのすべて評価することもできるが、二～三の観点を重点的に評価することも可能である。評価にとらわれて評価のための評価にならないようにすることが大切だからである。

イ 指導と評価の工夫

1年間、1単元、1単位時間の評価には様々な方法がある。しかし、その基本は教師の直接的な観察や簡単な記録などの日常の授業における評価であると考ええる。つまり、評価においては教師の「観察眼」を養うことが重要と思われる。

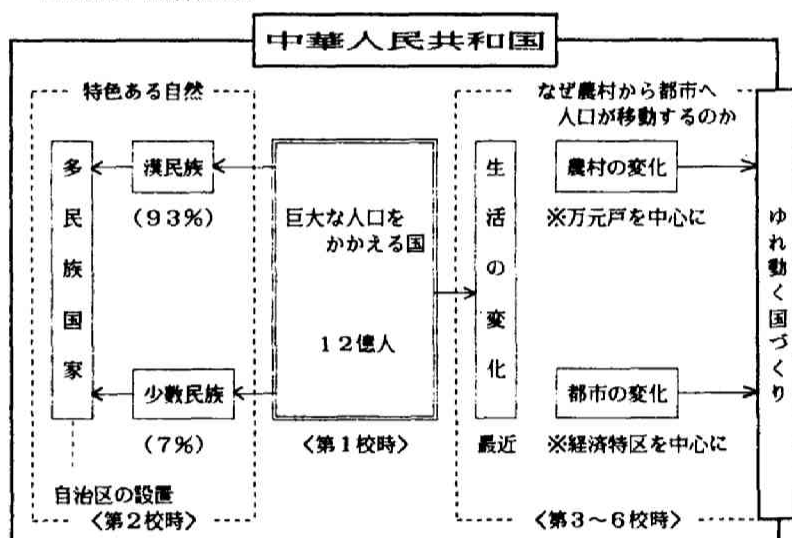
観察による評価においては生徒の表情を敏感に読み取り、発表や質問を丁寧に聞き、作業の場面で机間指導し、ノートなどを見てその場で評価し、その場で指導に生かしたり、記録にとったりすることが大切である。

(2) 単元の構成

下の図は、本単元の単元構成図であり、中華人民共和国についての学習内容を再構成したものである。

(ウ) 単元構成図

・下の図は、本単元の単元構成図である。中華人民共和国についての学習内容を再構成し、教材化した。



中国は12億人という世界一の巨大な人口を抱える国であり、全体の93%を占める漢民族とその他の少数民族から成り立つ多民族国家である。近年、この巨大な人口と複雑な民族から成る国を支えるため、新しい国づくりが始まっている。

そのため、農村から都市への人口の移動等から生じる都市や農村の生活の変化が顕著に現れている。この変化を中心にした学習内容を明確にするため、上記の単元構成図を作成した。

(3) 指導計画・評価計画

ア 単元名 中華人民共和国

イ 単元の目標 巨大な人口と多様な民族をかかえ、変わりつつある「中国」の現状をそこで暮らす人々の生活を通して理解させる。

指導計画				
時	主 題 ・ 指導目標	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
第 1 時	巨大な人口をかかえる国 (生徒の既習知識を発表させながら中国の概要をつかませ、人口の巨大さに注目させる。)	①世界一の人口 ②中国のあらまし ③まとめ	・中国の人口を調べ他の国と人口を比較する。 ・11億人となるように国を選び、プリントに着色する。 ・プリントに正式国名、面積、首都(位置)を記入する。 ・地図帳で中国の地形のあらましをつかむ。 ・作業プリントをもとに、中国の人口について再度確認する。	・日本と比較をし、地図帳を使って位置を確認させる。 ・人口の多さを印象付ける。 ・数値や表の見方を理解させ、統計資料の読み方に慣れさせる。 ・西高東低の地形に気付かせる。 ・地形の断面図から自然の様子をつかませる。 ・次時につなげるため、民族について簡単に触れる。
第 2 時	多様な民族 (中国の自然や多様な民族との関連から、偏っている人口分布の理由を考えさせる。)	①中国の人口分布 ②多様な民族 ③自治区の設置 ④中国の人口と民族のまとめ	・中国の自然について大まかに確認する。 ・東部への人口集中の理由を考える。 ・4民族の写真を見て、民族名を当てる。 ・民族構成を地図帳のグラフで確認する。 ・民族ごとの分布や一部地域において、自治区が設けられていることに気付く。 ・多民族国家の問題点を考えてみる。 ・プリントで学習内容をまとめる。	・人口集中の原因が自然条件のみにならぬよう配慮する。 ・判断するための理由付けを重視する。 ・中国が多民族国家であることに気付かせる。 ・多民族国家は中国だけでなく、ロシア、インドなど数多くあることにも触れる。

※評価基準に記述されている事柄は「おおむね満足できる＝B」とする。

※【 】は評価方法を示す。

評価計画 (評価の観点及び評価基準)				
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象につい ての知識・理解	評価方法及び評 価内容の留意点
・中国の人口の多さに興味を示し、調べようとする。 【作業状況の観察】	・統計資料から、中国の概要が読み取ることができる。 【発言内容の分析】	・作業課題にあった資料内容を読み取り、分類整理でき発問に対して適切に答えることができる。 ・中国の西高東低の地形と東部に集中する人口の関係を資料から読み取ることができる。 【机間指導による観察】	・中国の面積、人口、位置と自然などの概要を理解できる。 【発言内容の分析】	・発表された内容に余り深入りしないで、どんな発言も板書する。 ・表情なども見る。 ・作業プリントの作成中、机間指導をして生徒の作業状況を観察する。
・人口分布の偏りを見て、与えられた課題を追及しようとする。 ・写真資料などを興味を持って見る。 ・多民族国家が中国以外にも、いくつかあることに気付く。 【机間指導による観察】	・人口分布の偏りの理由を考えることができる。 ・写真資料から民族名を選ぶとき、理由などを述べることができる。 【発言内容の分析】	・地図帳から自治区を発見し、多民族国家であることに気付く。 【発言内容の分析】	・前時の学習との関連から、中国の人口や民族について理解を深めることができる。 【挙手による発言分析】 ・適切に学習内容をまとめ、プリントに記入することができる。 【プリントの分析】	・班で話をさせて、興味を引き出させる。 ・写真の人物だけに着目するのではなく、風景などからも判断するよう考慮する。 ・プリントを回収して、内容分析を行う。

指導計画				
時	主 題・指導目標	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
第 3 時	学習課題の発見 (前時の学習を発展させ、中国の近年における人口動態の変化の様子に気付かせ、班ごとに学習課題を発見させる。)	①中国の現在の様子 ②学習課題の発見	・「中国」のビデオを見て、気付いた点、興味のある点を記録する。 ・都市の生活、農村の生活についての読み物資料を読む。 ・興味のあること、調べてみたいことを生活班の中で出し合い、課題を発見する。	・都市と農村について、生徒に意識付けをする。 ・各班で発見した学習課題を学級全体で整理し、「都市の生活」及び、「農村の生活」の両方にかかわる内容を学習課題として、各班ごとに設定させる。 ・まとめに向けて助言する。 ・発表の仕方を考えさせる。
第 4 ・ 5 時	学習課題の設定 〃 追究 〃 まとめ (班ごとに学習課題を設定し、図書室などを利用して具体的に追究調査させながら、中国の変化を理解させる。)	①学習課題の設定 ②資料からの追究 ③学習課題のまとめ	・生活班の中で学習課題を設定し、調査分担を行う。 ・資料より学習課題を追究する。 ・発表原稿を仕上げる。 ・発表の手順を確認する。	
第 6 時	学習課題の発表 (前時のまとめた結果を発表させる。さらに他の班の発表を聞かせ中国の現在の様子や課題を理解させる。)	①学習課題の発表と聞き取り(30分) ②質疑応答(10分) ③まとめ(10分)	・各グループから順番に5分間で発表する。 ・他グループの発表を聞きながら分かったこと、質問したいことを学習シートにまとめる。 ・学習シートより、各自、他の班に質問する。 ・③で出された意見や質問を班で検討し、答える用意をする。 ・質問に答える。 ・教師のまとめを聞く。	・発表内容、発表方法を事前に報告させ、発表の準備をさせる。 ・発表のまとめ用シートを配布してから発表を始めさせる。 ・答えられる範囲で答えさせ、⑥の教師のまとめで補足する。 ・事後アンケートを配布する。

- ウ 単元の評価
- ・中国の巨大な人口が多民族で構成されていることに興味をもち、進んで学習しようとしたか。
 - ・中国の人口が都市と農村の間で移動していることに気付き、そのための社会的変化を考察できたか。

評価計画書（評価の観点及び評価の基準）				
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象につい ての知識・理解	評価方法及び評 価内容の留意点
・ビデオを見て、人口が移動していることに関心を抱く。 ・班として協力しようとする。 【作業状況の観察】 【提出プリントの確認】	・ビデオやグラフから中国についての学習課題を発見できる。 【机間指導による観察】 【提出プリントの確認】	・中国の社会の変化を、資料などから読み取ることができる。 【発言内容の分析】 【提出プリントの確認】	・日本と比較して中国の社会変化を理解することができる。 【発言内容の分析】 【提出プリントの確認】	・協力している様子などを書き留める。 ・チェック・リストを作成し、観察をする。
・自分の学習課題を積極的に追究しようとしている。 【作業状況の観察】	・既習知識を活用し、学習課題について考察する。 【机間指導による観察】	・学習課題にあった資料を選択し、適切に活用できる。 【作業状況の分析】 ・学習課題にあった資料を自分なりに工夫して表現できる。 【机間指導による観察】	・学習で得たそれぞれの知識の関連性が理解できる。 【ノート分析】 ・質問に対して適切に答える知識をもつことができる。 【発言内容の分析】 ・他の班の発表を自分の学習した内容と関連付けることができる。 【学習シート分析】	・机間指導しながら生徒が興味を持って話し合いに参加しているか。また、課題を中国の人口に関係付けながら考察しようとしているかなどを観察する。 ・その場で評価したことを通して、指導したり記録をしておく。 ・事後アンケートによって、生徒がもつ中国についての興味、関心の意識の変化を調べる。 ・相互評価も有効である。
・他人の意見を聞き、さらに学習課題を追究しようとしている。 ・発表に対して質問しようとする。 【発表者の態度や発表を聞く時の態度の観察】	・課題学習の学習から中国の現状分析ができ、新しい中国の課題を発見できる。 【レポートの分析】	・学習シートを基に、調べた内容を要領よくまとめ、分かりやすくハッキリとみんなに発表できる。 【発表内容の分析】		

- ・資料などを適切に活用して課題を追究し、分かりやすく発表できたか。
- ・現代の中国が抱える社会的問題を通して、我が国の抱える同じような問題に気付くことができたか。

(4) 学習指導案

ア 本時の主題 第3校時 学習課題の発見

イ 本時の目標

前時の学習を発展させ、中国の近年における人口動態の変化の様子に気付かせ、班ごとに学習課題を発見させる。

ウ 本時の展開

	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価方法など	評価の際の留意点
導入 2分	① 学習の流れ	① 本時の学習の流れを確認する。	① 模造紙などに授業の流れを記入し、掲示しておく。それで説明をする。	① 【意欲・態度】 ・聞いている様子から観察する。	① 本時の学習の流れがつかめたかどうかをとらえる。
展開 1 20分	② 三つの資料の読取り ・ビデオ ・グラフ ・文章資料	② 「中国の人々の暮らし」を知るための資料を見たり読み取ったりしながら、気付いたことをプリントに記入する。 (プリント①)	② 視覚的・統計的・文書的に中国の人々の暮らしの様子を知ることのできる資料を準備する。 そこから気付いたことを出させることを通じて「課題発見」の準備をさせる。	② 【意欲・態度】 【資料の活用】 ・プリントに記入する様子を観察する。 ・発言の内容を分析する。 ・授業後に回収したプリントから記述内容を分析する。	② 気付いたことを記入している様子を観察しながら、個々の生徒の取り組みの姿を知るようにする。 *後でプリントを提出させて、その記入状況などから評価に生かすようにする。
展開 2 25分	③ 学習課題の班ごとでの発見・発表 ④ 学習課題の分類 (都市に関するもの、農村に関するもの)	③ 三つの資料を生かして、各班で個人の意見を出し合ったのち、班で課題を二つくらいに仕上げる。 (プリント②) *各班5分で課題を発見する作業をする。 ③' 班ごとに発見した課題を発表し、それを各自でプリントに記入する。 *2分ごとに発表をする。 ④ 各班の発表の共通点・相違点をプリントや黒板・提示機から探り、どんなところから「人々の暮らし」にせまれるか再び考える。	③ 班ごとに、個人の「こんなことを調べたい」という意見を十分吸い上げられるように配慮し、そこから個々の意見を生かして、班としての課題づくりをさせる。 *机間指導をして生徒の手助けを十分する。 ③' わかりやすく発表させるための工夫をする。 (教材提示機の使用、短冊黒板、画用紙の利用など視覚的な面での配慮をする。)	③ 【意欲・態度】 ・各班で、意見を出している様子や話し合いでの記録・発表の役割分担の様子を観察する。 ・授業後にプリントを回収して、個々の関わりを分析する。 ③' 【発表・表現】 ・発表の態度や内容から、班の様子や個人を観察する。 ④ 【思考・判断】 ・六つの班の課題をどのように分類し、まとめているか、考えている様子・発言から観察する。	③ 各班で話し合っている様子をとらえるため、机間指導を適宜行う。 *とくに、個々の意見が、どのようにまとめられて生かされているのかをとらえるように心がける。 ③' 発表の内容や発表の仕方、表現の工夫などに留意する。 ④ 班の課題から、都市・農村に関するものを分類していくことを通じ、調査課題がどのくらいはっきりさせられたかを知る。
まとめ 3分	⑤ 次時への予告	⑤ 都市に関するもの、農村に関するもの、それぞれ一つずつを班で課題設定することを知る。 (プリントを見て、説明を聞く。)	⑤ 次時の班の課題設定、調査活動をスムーズにすすめさせるために、調査プリントを配布し、都市及び農村に関するものを一つずつ学習課題に設定することを確認させる。	⑤ 【意欲・態度】 ・聞く姿勢などから課題設定、調査活動をする手順を知ることができたか観察する。	⑤ 次時の学習の進み方について知ろうとする姿勢から、調査活動をする意欲を知るように心がける。

エ 本時の評価

前時の学習を発展させ、中国の近年における人口動態の変化の様子に気付かせ、班ごとに学習課題を発見することができたか。

オ 本時の指導と評価

中国の近年における人口動態の変化の様子に気付かせ、班ごとに学習課題を発見させられたか。教師の作業状況の観察や机間指導・発表の様子などの観察(チェック用紙)から、生徒の実態に合わせた評価をすることができたか。

プリント① 課題発見のための資料

※資料1 中国の様子を紹介したビデオから、気付いたこと・疑問に思ったことなどを項目ごとにメモしておこう。

① 都市の様子

② 工業の様子

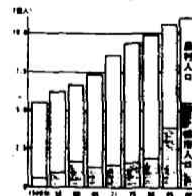
③ 農村の様子

④ 農業の様子

※ビデオ全体を通して、知りたいと思ったことなどをメモしておこう。

道 班・氏名

※資料2 下の中国の人口の推移のグラフからわかることを書こう。



※資料3 下の「都市と農村の生活」を読んで、気付いたことを書こう。

① 都市の生活 (湖南特別区 衡州市)

衡州では、人口が3万人から200万人にふくれあがった。工業総生産5千萬元から255億元、実に400倍を越す成長ぶりである。
「衡州バリエーション」と呼ばれる金湖山荘、ここに住人入夫人(28)の家では現金通帳が十数冊ある。この夫人は「衡州にでたのが最初の成功、そして豊地で働いたのが第二の成功です。この10年ですべての財産が数十倍になりました」と語った。(雑誌 VIEWSから)

② 農村の生活 (ある万元戸の暮らし) 1元 = 約37円 1989年

ピーク。リーダーが囃らす最初の音を合図に、農家の働き手たちは鞭子をかぶり、くわをそろえる。ピーク。2回目。家から農具を揃えて田んぼへ。3回目。農作機開始。楊(ヤン)さんは、1978年まで畜に勤められて仕事をしてた。「決められた時間に言われたとおりには働くだけ。あまり飽きりませんでしたが。しかし今はもう飽きはない。彼は約2.7haの農地に稲・小麦・大豆・いものほか、タバコ・なたねを植える。それに牛4頭、豚25頭、にわとり・がちょう各30羽の世話に追われる。おかげで楊さん一家7人の年間所得は、1981年から1万元を越えた。本所得=収入のこと。(正進社 地理の資料から)

プリント② 各組での調査課題の発見

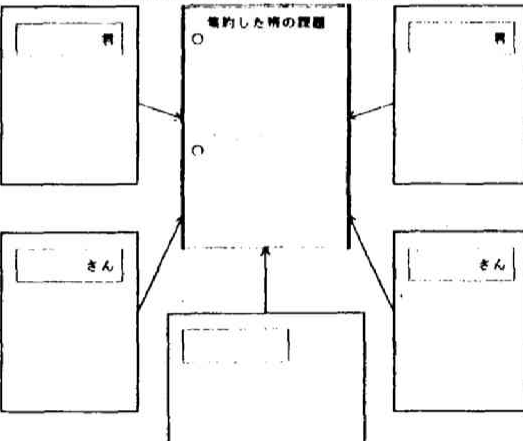
班・記録者

<話し合いの手順>

記録者・司会 → 各個人の意見を → 所定時間して2つに絞る → 発表者決定
を出し切る。 → 理由づけをする。 → 全体に発表

※記録者・司会・下のマスにメモしていく。
※発表の仕方・「〇所では・・・のような課題がでて、・・・理由で・・・と・・・の課題を発見しました」

作業課題 三つの資料などをいかして、中国の人々のくらしの様子を知るとしたら、どんな調査課題が発見できるのか。一人一人できただけ出して、そこから同じところをまとめ、二つくらいに絞ろう。



カ プリント資料の説明など

○ プリント①(上に掲載したもの)から

・NHKビデオ教材・世界の人々とくらし『中国・韓国』から「中国の人々・ゆたかな産業」

<内容> 北京のアパート/3人家族のくらし
北京料理/11億人の人口/住宅難/自転車通勤
一人っ子政策/人民公社/生産責任制/自由市場
万元戸の家/中国の農業-東北・長江流域・南部
経済開発/経済特別区/外国文化の流入/中国の
工業/地下資源の利用/重化学工業中心
・とくにナレーションなどからの言葉を掲載

・グラフ 『中国人口統計年鑑 1989年版』から
帝国書院 『社会科中学生の地理』から転載

・文章資料 都市のくらし・・・『雑誌 VIEWS』から
農村のくらし・・・『正進社 地理の資料』から

○ プリント②(左に掲載したもの)

・一人一人の生徒の意見を大切にしながら、それを班員全員で二つくらいに絞る際に使用した。個々の意見を生かして、みんなで課題をまとめていく中に主体的に学習する姿勢が生まれ、課題を追求していく際に、それが生かされていくと考えて考案したものである。

(5) 研究授業の考察

ア 学習活動について

前時までの教師主導の一斉学習をふまえ、主体的に学習するための自ら課題を発見する授業がこの研究授業であった。

展開では、まずビデオで中国の様子を確認したが、生徒たちは資料1に一生懸命にメモを取りながらよく見ており、意欲的に取り組み始めた。

ビデオの視聴後、資料2、3のグラフや文章資料から今日の中国の変化について読み取らせようとしたが、時間的に不十分であった。

次に展開2の学習課題を発見する作業に入ったが、各班のメンバーがそれぞれ自分の意見を出し合い、記録担当の生徒がプリント②にしっかりとまとめていた。この場面は各自の意見を具体的に出すことができる点で、主体的な学習を促す重要な場面であったと考える。生徒たちは、机間指導をしている教師に質問をしたり、メモをしたプリントを見たり教科書や資料集を開いたりしながら自分の学習課題を発見し考えをまとめ、さらに、班の学習課題として練り上げていた。まとめられた班の学習課題は、教材提示機を使用し発表された。生徒が発見しまとめられた学習課題として、以下のものがあげられた。「人口増加の問題点」、「一人っ子政策」、「経済特区」、「人民公社」、「生産責任制」、「万元戸」、「華北平原以外の暮らし」、「自転車は何故今も利用しているのか」、「中国の農業」、「地下資源」、「三種の神器と自転車」、「中国の産業」。

イ 評価について

今回の授業では評価について、各生徒の観察やプリントの記入状況の分析などの方法を通して評価することにより主体的な学習を促すことを目指した。

そのために、生徒の様子を記入できるチェック表（展開場面ごとに個人名を入れた座席図がついたもの）を作成し授業に臨んだ。しかし、十分に記録することはできなかった。あまり詳細な評価表は、記入に無理があり、活用しきれないことが分かった。一方では教師の「観察眼」を養う必要も感じた。また、授業の机間指導中に行った観察による評価からは、次の助言に必要な点を見付けることができ、授業後に提出させたプリントの分析からも意欲的に活動していたことが分かった。また、関心・意欲・態度は、教師と生徒の人間関係も影響し、ちょっとした声掛けが生徒を生かす評価につながると考えられる。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

地理分科会では「主体的な学習を促す指導と評価の工夫」を主題として研究を進め、次の点を明らかにすることができた。

ア 「様々な地域」において、主体的な学習を促す指導方法として「適切な課題を設けて行う学習」を取り入れる場合、1年生の発達段階を考慮し、課題設定の前に一斉学習を取り入れる単元構成は効果的である。本研究では「様々な地域」の一つとして「中華人民共和国」を取り上げ、近年における中国の変化を学習課題として設定できるように第1時、第2時は「人口と民族」を学習内容とした一斉学習とした。この単元構成の工夫によって第3時以降の課題学習に生徒一人一人が主体的にかかわることができた。

イ 単元（6時間扱い）全体の指導計画と評価計画（指導目標に合わせた観点別学習状況の評価の観点や評価基準・評価方法）を一体的にとらえた表を作成することは、指導と評価の一体化に効果的であることがわかり、その活用を試みた。また、この工夫は各時の指導案の中にも生かされ、1単位時間ごとの観点別学習状況の評価の具体化も図ることができた。

ウ 事前及び事後のアンケートをとることは、生徒の中国に対する関心、学習意欲、知識の変容を確認する上で効果的である。また、ごくわずかではあるが、中国を学習したことによってアメリカ合衆国、ロシア連邦、インドなどの国を学習してみたくなったと記入した生徒も見られ、「様々な地域」の学習の特性を確認することができた。

(2) 今後の課題

ア 「適切な課題を設けて行う学習」では、生徒に学習課題を設定させる場面で、その手がかりとなる資料の選択と提示の仕方が、その後の生徒の学習活動に大きな影響を与える。生徒が主体的に学習できるように、十分検討する必要がある。

イ 観点別学習状況の評価は、生徒の活動や表情、机間指導、質問、ノート等の提出による点検、生徒の自己評価・相互評価など様々な方法を取り入れる必要がある。また、授業中に一人の教師が学習指導と同時に評価を行うことは、なかなか難しい。そこでティームティーチングを取り入れた指導による研究が急務と思われる。

ウ 「様々な地域」を指導する時、「多様な世界」での学習内容をできるだけ生かすように心がけたい。世界の国々の名称や位置、人々の生活についての既習知識を生かすことによって「様々な地域」で取り上げた地域や国の理解を円滑にしたい。

Ⅲ 公民的分野

生徒の思考力・判断力を育て、主体的な学習活動を促す指導法の工夫

ー ディベートによる学習を取り入れた「消費者の保護」を通して ー

1 主題設定の理由

現代の社会では、科学技術の進歩や産業の進展に伴い国際化、情報化、高齢化等が進む中、社会の変化に主体的に対応できる力が求められている。同時に、社会的事象を学習対象とする社会科は「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを求められているが、従来の授業においては、社会の制度や仕組みを中心に扱い、これに関連した用語の解説に時間をかけ、生徒に知識を身に付けさせることを主眼とすることになりがちであった。こうした授業では生徒の意欲的な学習を促すことはできず、社会的事象に対して主体的に考えたり、判断したりする能力が育たず、急激な社会の変化に対応できる生徒の育成につながらない。生徒が生涯を通して学び続けるためには、「基礎的・基本的な内容」を明らかにするとともに、こうした思考力や判断力を身に付けさせることが重要である。

学習内容としては、思考力・判断力を育てる観点から、学習指導要領の公民的分野「(2)国民生活の向上と経済」の「イ 国民生活と福祉」の「消費者の保護」を取り上げた。この項目を取り上げた理由は、生徒自身が消費者として社会生活を営んでおり、身近な問題として考え、興味・関心をもちながら学習することができるからである。また、国際化、情報化、高齢化といった社会の変化に伴って、消費生活も変化してきていることや生涯学習の観点からも消費者教育が大切であり、「消費者の保護」の学習が一層必要であると考えられるからである。

本研究では、学習内容の改善よりも生徒一人一人の個性を生かした主体的な学習活動を促す指導法の工夫に力点を置いた。そこで、従前の授業形態を改め、消費生活における身近なストーリーを劇化し、生徒に演じさせることによって興味・関心を高め、消費生活にかかわる様々な問題を発見させ論題を設定させることを試みた。そして、まとめに生徒の思考力・判断力を育て学習課題に対する成就感や満足感を味わえるような学習形態として、討議法の一つであるディベートによる学習を取り入れた。論題に即した資料や情報を収集・選択・活用する技能と表現力を養い、この学習を通して他人の考えや立場を認め理解する態度を育成するとともに、民主的な社会においては諸問題の解決方法として討議が重要な役割を果たしていることに気付かせることが大切であると考え、上記の主題を設定した。

2 研究のねらいと方法

(1) 研究のねらい

- ア 消費生活の当事者であり、経済社会の一員である生徒自身に、消費者としての基礎的な知識と態度を身に付けさせ、生涯にわたり必要とされる思考力、判断力の育成を図る指導法の研究を行う。
- イ 学習の主体者である生徒の興味・関心を高めるために、「消費者の保護」の学習内容を精選し、消費生活について身近で具体的な題材を取り上げ、それを劇化することにより学習意欲を一層喚起させ、生徒の授業への主体性を高める指導法の工夫を図る。
- ウ 討議法の一つであるディベートを通して主体的に資料や情報の収集と選択を行い、資料活用能力や表現力を育てるとともに、諸問題を解決していく民主主義社会を担うことのできる資質の基礎の育成を目指す指導法の研究を行う。

(2) 研究の方法

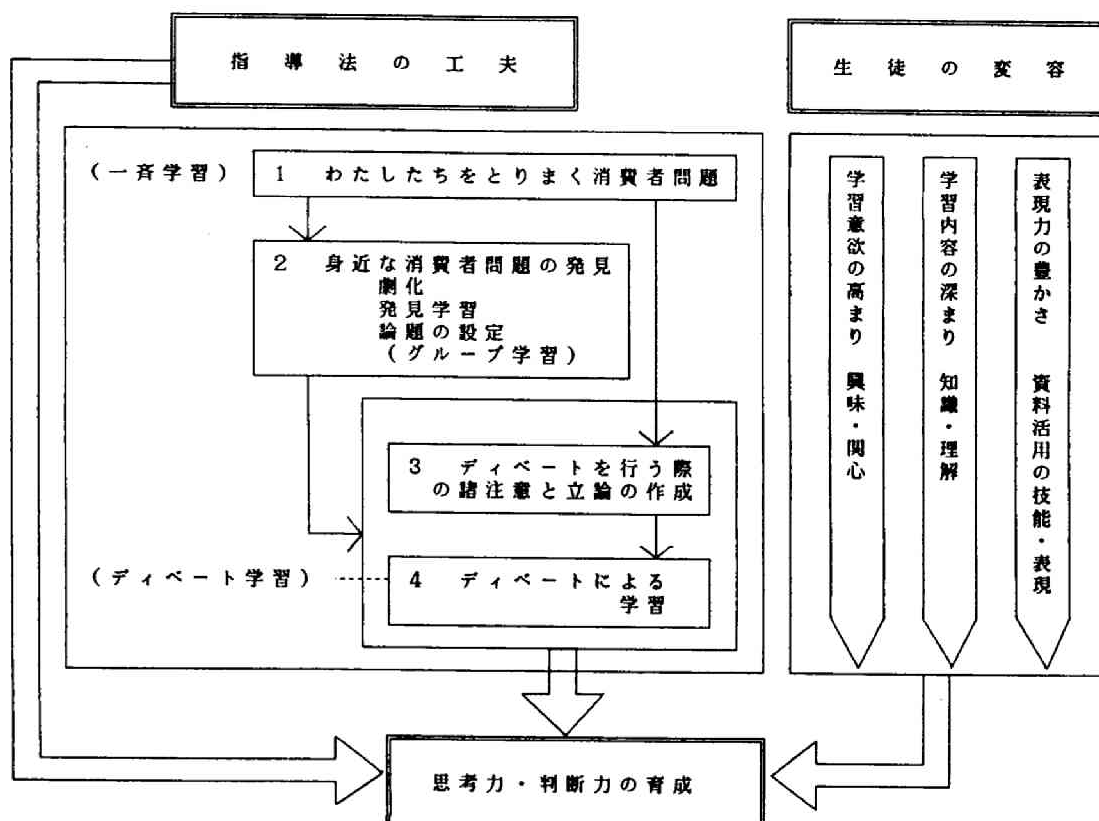
- ア 事前に「消費生活の意識に関するアンケート」と「消費行動に関するアンケート」調査を実施し、生徒の実態を把握する。
- イ 指導計画（4時間扱い）を作成し、研究授業を実施する。
- ウ 消費生活の諸問題を身近なものにするために、生徒に簡単な劇を演じさせ学習意欲を高める工夫をする。
- エ ディベートによる指導法の工夫を行う。
 - (ア) 対立点が明確になるような論題設定の検討を行う。
 - (イ) 生徒の思考力・判断力を育てる指導法として、討議法の一つであるディベートを取り入れる。そして、ディベートに関する文献や先行実践についての研究を行う。
 - * ディベートは、一定のルールに基づいて、自分の論理性や実証性等を競い合い、興味・関心を引き出しやすいゲーム的感覚の討議法である。また、討議前の準備が重要であり、グループ活動で協力して資料や情報を収集・選択し、それらを有効に活用する技能や表現・主張する能力を高める指導法として効果的である。また、討議の実践段階では、民主主義の基本である討議を他者の立場にも気付かせながら理解させ、様々な角度から思考力や判断力を育てることが可能な指導法である。
- (ウ) 判定基準や判定方法の検討を行う。
- オ 授業後、消費生活についてのレポートを作成させ、生徒の意識の変容を探る。
- カ 授業に使用する副教材（補助教材）の開発や検討を行う。

3 指導内容

(1) 指導計画

- 第1時 「わたしたちをとりまく消費者問題」・・・消費者問題についての意識付けをし、消費者の権利と保護を理解させるため、学習内容を精選し、一斉授業を行う。
- 第2時 「身近な消費者問題の発見」・・・教師が作成する消費生活にかかわるシナリオを生徒が演じる。その劇を通して消費者問題に対する生徒の興味・関心を高め、一人一人の生徒に様々な消費者問題を発見させ、ディベートの論題に導く。
- 第3時 「ディベートを行う際の諸注意と立論の作成」・・・ディベートを行う際のルールを理解させ、ディベーターを決定する。ディベーターには論題を的確に捉えさせ、自分の考えをまとめ、質問を考えさせる。
- 第4時 「ディベートによる学習」 論題「ものはクレジットカードで買うべきである」・・・ディベーターには確実な資料に基づき、立論や反駁、最終弁論を行わせる。判定者にはその討論を聞かせ、意見をまとめ判定させる。また、全員に「これからの消費生活」という題でレポートを書かせる。

(2) 指導内容の構成図



(構成図) 今回の研究では、指導法の工夫に主なねらいを置き、ディベートや劇化などの方法によって生徒の思考力・判断力の育成を目指すことを図った。

4 研究授業

A 学習指導案（第1時）

ア 主 題 「わたしたちをとりまく消費者問題」

イ 本時のねらい

（ア）消費者問題についての意識付けをし、消費者教育について興味・関心をもたせる。

（イ）消費者問題の変遷から、消費者の権利、保護について理解させる。

ウ 本時の展開

	学習活動	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
導 入 5 分	○「消費行動に関するアンケート」の集計結果	1 アンケートの結果について、気付いたことを発表する。	・事前に実施したアンケートの集計結果をプリントして提示する。 ・挙手させる。（一斉）	・アンケートの集計
展 開 40 分	○生徒をとりまく社会の消費者問題の現状	2 「東京都消費者センター」の資料を見ながら、気付いたことをワークシートに記入し、数名が発表する。	・若者の消費者意識は比較的健全だが、消費者被害は増加している。消費者意識と消費行動のずれを指摘する。 ・消費者被害の種類が多様化し、また被害も高校生や大学生から低年齢の小・中学生にまで及んでいることを理解させる。	・「消費者センターにおける相談事例から」東京都消費者センター資料
	○消費者問題の変遷	3 「消費者問題の変遷」の資料を見ながら、気付いたことや知っていることをグループで話し合いワークシートに記入し、発表する。	・消費者問題が社会経済の大きな変化のなかで、複雑、多様化してきたことを理解させる。 ・消費者問題の歴史は、消費者問題の解決、消費者の保護や権利の確立のための運動の歴史であることを引き出す。	・「消費者行政、消費者センターのあゆみと消費者問題運動史」東京都消費者センター資料
	○消費者の権利	4 消費者の権利が強く要求されるようになった理由を考える。 5 ケネディの四つの権利を、自分の生活にふりかえって具体的に考え、ワークシートに記入し、数名が発表する。	・ケネディの四つの権利「1 安全を求める権利 2 知らされる権利 3 選ぶ権利 4 意見が反映される権利」について考えさせる。 ・ケネディの四つの権利は、世界各国の消費者運動、司法、行政に大きな影響を与えていることを指摘する。 ・フォード大統領の第五の権利「消費者教育を受ける権利」について触れる。	
	○行政の消費者保護についての取り組み	6 消費者保護基本法には、どんなことが定められているかを考える 7 国民生活センターや各地の消費者センターの役割について理解する。	・消費者被害にあった場合にどのように対処したらよいか考えさせる	・「東京都の消費生活条例」
ま と め 5 分	○中・高校生の消費生活	8 「図式で見る中・高校生の消費生活」の資料を参考に自分の消費生活を見つめ直し、考えたことをワークシートに記入する。	・身近な消費生活が、大量消費社会・国際化・高齢化社会・カード社会また、資源環境問題とどのようにかわるかを指摘する。	・「図式で見る中・高校生の消費生活」消費社会へのワンステップ（東京都）

エ 本時の評価

（ア）消費者問題について、意識することができたか。

（イ）消費者問題の歴史、消費者の権利、保護など基本的な内容を理解することができたか。

B 学習指導案 (第2時)

ア 主 題 「身近な消費者問題の発見」

イ 本時のねらい

- (ア) 劇を通して生徒たちに消費者生活における問題点を発見させる。
 (イ) 多様化する販売方法を理解させ、契約の意義と重要性に気付かせる。
 (ウ) 次時のディバートの論議を考えさせる。

ウ 本時の展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	資 料
導入 10分	○消費者問題に対する関心	1 消費者問題の劇(約4分間)を見る。 ・感想や意見をワークシートに記入して発表する。	・消費者問題を身近なものとしてとらえさせ興味、関心を引き起こす。	
展 開 30分	○身近な消費者問題 ○通信販売 ○契約の意義と重要性 ○現金以外の購入方法 ○クレジットカード	2 再度劇をみて問題点を見つけだす。 C子の行動の問題点をみつけ台本に下線を引く。 発問① 今後、C子はどのような点で困るか? ワークシートに記入して発表する。 (生徒の予想) ・お金が払えなくなる。 ・通信販売で困る。 品物自体がこない。 不良品、注文と違うものがくる。 ↓ 3 発問② 品物は、返品できるのか? その理由は? ワークシートに記入して発表する。 通信販売について説明を聞く。 長所・短所について 利用上の注意点 など 4 発問③ この通信販売の契約は、取り消せるか? その理由は? ワークシートに記入して発表する。 (生徒の予想) ・約束だから取り消せない。 ・電話の注文だから取り消せる。 ・未成年だから取り消せる。 ↓ 契約について説明を聞く。 その時、訪問販売における ・未成年の取り消し権 ・クーリング・オフ制度についても理解する。 5 発問④ あなたが、C子の立場ならどのようにして商品を購入するか? ワークシートに記入して発表する。 (生徒の予想) ・貯金して現金で買う。 ・通信販売で後払い。 ・友人、親から借金して買う。 ・(親の)クレジットカードで買う。 クレジットカードについて説明を聞く。	・劇の台本を生徒に渡す。 ・通信販売の説明は、地域や生徒の実態を考慮しながら説明する。 ・契約の説明は、専門的にならないように配慮する。 ・クレジットカードが生徒から出てこなかったら借金の一つの形態として提示する。 ・クレジットカードの機能の説明程度に留める。	・「通信販売—広告は信用できますか」全国消費者相談員協会等通信販売に関する資料 ・「消費社会へのワン・ステップ」東京都消費者センター等訪問販売とそのトラブル防止に関する資料 ・「あなたも消費者NO.1 9 クレジット」東京都消費者センター等クレジットカードに関する資料 ・クレジットカードの現物
まとめ 10分	○次時のディバートの論議設定	6 発問⑤ あなたは、クレジットカードを将来使用してみたいか? ワークシートに記入後、挙手をする。 長所・短所等意見の違う生徒数名が発表する。 ・次の時間から、「ものはクレジットカードで買うべきである。」についてディバートを行うことを確認する。	・意見の対立をディバートの論議に導く。 ・次の時間までにクレジットカードの資料を収集し、持ってこさせる。	

エ 本時の評価

- (ア) 消費生活における問題点を自分たちの身近なものとしてとらえることができたか。
 (イ) 消費者としての自覚ある行動について意識することができたか。
 (ウ) 次時のディバートの論議を自分たちで発見できたか。

C 学習指導案（第3時）

ア 主題「ディベートを行う際の諸注意と立論の作成」

イ 本時のねらい

（ア） ディベートを行う際のルールを理解させるとともに、ディベーターには論題を的確に捉えさせ、確実な資料に基づいて様々な角度から考察させ、立論の準備を行わせる。

（イ） ディベーター以外の生徒は論題を把握し、自分の考えをまとめておくとともに、判定者としての質問を考えさせる。

（ウ） ディベーターには効果的な資料の活用の工夫を行わせる。

ウ 本時の展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	資 料
導入 3分	○論題の確認	1 前時の劇での消費生活における問題点を確認し論題について全員で確認する。	・問題点を明らかにし、対立点を生徒に示す。	
展 開 42分	○ディベートの説明とディベーターの決定 ○ディベートの作戦 ○立論作成 ○反駁検討 ○判定者の指導（判定基準の確認と採点表の活用方法）	2 ディベートのルールや第4時のディベートの学習の進め方について説明を受け、理解する。 3 自分の論題の賛否やディベーターをやってみたいという希望を優先にディベーターを決定する。 4 ディベーターと判定者の活動 〔ディベーター〕 ① おおまかに自派のグループでディベートに向けての作戦を立てる。 ② 各自のディベート情報カードを見ながら、立論の内容を考える。 ③ 相手の立論を予想してそれに対する反駁の資料を用意し、反駁を考える。 〔判定者〕 ① ディベート学習の流れを理解する。 ② 採点表の内容を把握し、採点の仕方を確認する。 ③ 判定法について理解する。 ④ 論題についての自己の考えをまとめ、第4時の始めに明らかにする。	・ディベーターの数は同数にする。男女混合で構成する。 ・学級をディベーターと判定者の二グループに分け、それぞれの学習内容にそって活動させる。 ・二グループには適宜、指導助言する。 ・ディベーターに対しては、発表に必要な資料等を配布し、活用させる。 ・本時の指導の重点は判定者に置く。	・「ディベートの学習についての」プリント ・「ディベート情報カード」 ・「ディベートの展開に向けて」 ・「ディベート採点表」 ・「判定者ディベートメモ用紙」 ・「ディベート自己評価カード」
まとめ 5分	○発表準備	5 ディベートを行う際に提示する資料の作成に関する指示を受け、発表内容を分担して、ディベートに備える。 6 判定者は資料収集後、さらに自己の考えをまとめさせ、ディベートに臨ませる。	・リハーサルを各派で行わせ資料収集を徹底させる。 ・両派の進捗状況を的確に把握し、必要に応じて経過報告をさせる。 ・判定者は質問事項を事前に考えさせる。 ・教室内の配置を提示する。 ・放課後等を使って調査、研究をまとめさせ、それに対して指導・助言する。	・ディベートの配置図

エ 本時の評価

（ア） 論題を的確に把握し、ディベートのルールや次時の学習の進め方を理解することができたか。

（イ） 確実な資料に基づき、立論や反駁の準備を意欲的に行うことができたか。

（ウ） ディベートで使用する資料の活用方法を理解することができたか。

オ 資料（教師が用意し、生徒に配布する資料）

（ア） 「くらしの相談」東京都消費者センター

（イ） 「あなたも消費者 No19 クレジット」東京都消費者センター

（ウ） 「消費生活条例と私たち」東京都生活文化局消費者部計画調整室

（エ） 「通信販売—広告—is信用できますか—」全国消費生活相談員協会

（オ） 「A Guide to Money&Card お金やカードについて考えてみよう」貯蓄広報中央委員会

（カ） 「消費社会へのワン・ステップ。」消費者教育読本（中・高生向）東京都情報連絡室

Ｄ 学習指導案 （第４時）

ア 主 題 デイバートによる学習 論題「ものはクレジットカードで買うべきである」

イ 本時のねらい

- (ア) 消費生活における取引や契約の形態の多様化の実態を踏まえて、賢い消費者として主体的に判断し、行動することの重要性を理解させる。
- (イ) デイバートによる学習を通して、論題に即した資料や情報を収集・選択・活用する技能と表現力を養い、他人の考えや立場を認め理解する態度を育成する。
- (ウ) 民主的な社会においては、諸問題の解決方法として討議が重要な役割を果たしていることに気付かせる。

ウ 本時の展開

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点	資 料
導入 3分	○論題の確認（3分）	1 「ものはクレジットカードで買うべきである」という論題を確認する。 2 判定者は論題に対する賛否を表明する。	・肯定側と否定側及び判定者に論題と立場を再確認させる。	
展 開 37分	○討議 (1) 立論 ①肯定側（4分） ②否定側（4分） ③作戦タイム（2分） (2) 反駁と尋問 ①否定側 → 肯定側（7分） ②肯定側 → 否定側（7分） (3) 判定者からの質問（3分） (4) 作戦タイム（2分） (5) 最終弁論 ①肯定側（4分） ②否定側（4分）	3 立論、反駁と尋問、判定者からの質問、最終弁論の順に討議を行う。 ＜予想される肯定側の主張＞ ・クレジットカードを利用すれば、必要なものを必要な時に買うことができ、毎月の収入に拘束されない。また、現金を持ち歩かなくてよい。 ・将来的には、国内的にも国際的にもますますカード社会となる。 ＜予想される否定側の主張＞ ・直接、お店の人と交渉することができ値段が安くなる可能性がある。 ・現金だと、実際のお金の残高がはっきりして、安心して計画的に買い物ができる。	・教師は、司会を行いながら肯定側・否定側・判定者の行動を把握する。 ・タイムキーパーを行う生徒には、計時を厳格に公平に行うように指示する。 ・判定者に作戦タイムの時デイバート採点表に記入させる。	・デイバーター 「デイバート情報カード」 ・判定者 「デイバートメモ用紙」 「デイバート採点表」
まとめ 10分	○判定と講評（7分） ○課題レポートの作成について（3分）	4 判定者は、デイバートに対する判定を行う。 5 判定者は論題に対する賛否を、再度表明する。 6 教師の講評を聞き、消費者として主体的に判断し行動することの重要性を理解する。 7 課題レポート「これからの消費者と消費生活」の作成方法を聞く。	・デイバートに対する判定は、論理性、説得力、情報、資料の活用の仕方、話し方、時間配分等を基準に行わせる。 ・デイバートに対する判定に左右されず、判定者自身の論題に対する賛否を表明させ、判定者の宴客を把握する。	・デイバーター 「デイバート自己評価カード」 ・判定者 「判定者自己評価カード」

エ 本時の評価

- (ア) 消費生活における取引や契約の形態の多様化の実態を踏まえて、賢い消費者として主体的に判断し、行動することの重要性を理解することができたか。
- (イ) デイバートによる学習を通して、論題に即した資料や情報を収集・選択・活用する技能と表現力を高め、他人の考えや立場を認め理解する態度を身に付けることができたか。
- (ウ) 民主的な社会においては、諸問題の解決方法として討議が重要な役割を果たしていることに気付くことができたか。

5 授業の考察

研究授業は第4時のディベートによる学習を行ったが、指導計画に沿って4時間全体の考察を述べる。

第1時では、学習内容の精選を図った一斉授業を行った。事前の生徒のアンケート結果を活用したり、消費者問題の変遷や現状を示したりして、消費者問題に着目させるとともに消費者の権利や保護について考えさせ、基礎的な知識の理解を図った。この時間は、ワークシートを中心に意見をまとめさせ、発表させる方法が有効であった。

第2時では、教師が作成した劇のシナリオを生徒が演じ、学習内容に対する興味や関心をもたせ、身近な消費生活の問題点を発見させた。多くの生徒が、「通信販売のトラブル」や「契約の成立、解消」、「クレジットカードの有効性と問題点」を指摘できた。この指摘をもとに通信販売、契約の意義と重要性、クレジットカードに関する知識を整理させ、理解を深めさせた。導入の劇は、学習内容に対する興味や関心を高めるのに有効であり、その後のディベートによる学習における立論や反駁のまとめの際にも役に立った。しかし、シナリオの内容や劇の演じ方について、さらに検討改善する必要がある。まとめで生徒から論題を導き出し論題の設定を行った。

第3時では、ディベートの学習の方法について説明し、ディベーターとタイムキーパーの決定後、残りの時間でディベーターは情報カードを活用し、立論をまとめ、反駁を考えた。判定者は採点基準を確認し、判定者自身の賛否の考えをまとめ、質問を考えた。実際には、授業時間以外に2日間放課後を利用し事前学習を進めていった。クレジットカードの所有の有無やその理由に関するアンケート調査の実施と集計、図書館での資料調べ、消費者センターやカード会社への電話での質問など、グループで協力し主体的に事前学習に取り組んだ。

第4時では、最初に、判定者に賛否を問うたが賛成は一人であり、ほとんどの生徒がクレジットカードの利用について否定的であった。事前学習の成果が発揮され立論は積極的に行われたが、授業の山場となる反駁では、相手の弱点をつくことが弱かったり、尋問に対して相手を納得させることができなかったりする場面があった。ディベートの判定結果は否定派の勝ちであったが、論題に対する判定者自身の考えの賛否を再度問うた結果、賛成が3人と増えた。今回、教師が司会を行ったが、生徒の発言や行動を記録し、評価につなげる活動がスムーズにできない面があり、今後の課題といえる。また、ディベートの時間配分や論題の適切さの検討、ディベート採点表の採点基準、ディベーター自己評価カード、判定者自己評価カード等の工夫・改善が必要と思われ、今後の課題として残った。

「消費者の保護」における劇の台本

1. 舞台設定 10月上旬の天気の良い日曜日、C子の部屋での出来事
A子はマンガを読んでいる。B子はゲームボーイをやっている。C子はカタログを見ている。

2. 登場人物 女子生徒A子、B子、C子

3. 台本

A子 何かいいことないかなあ。

B子 本当だよええ。 — 間 — A子、このゲーム面白いよ。キャハハ (笑)

A子 本当、どれどれ、やらしてよ。 — 間 — 本当、超面白いね。

C子 もう、うるさいわねえ。 — 間 — ねえ、見て見て、このカタログ。

A子 本当? すてき。 — 間 — B子も見ろらんよ。

B子 もう、何よう。 — 間 — すてきな洋服ね。でも、私、こっちの洋服のほうがいいわ。だってデザインがすてきじゃない。

A子 そうかな? 私、この服の色あい、すてきだと思うわ。

C子 私は、デザインとてごろな値段が最高だと思うわ。

B子 そうかな? 確かに、値段は、てごろだけど、やっぱりこっちの服のほうがいいわ。

C子 ねえねえ、この服欲しいな。、買っちゃおうかな。

A子 え、本当? — 間 — お金、どうするの?

C子 お金ないけど。簡単に買える方法があるのよ。

B子 クレジットカードかなんかで買うの?

A子 クレジットカード。でも、みんな持ってないでしょ。

C子 クレジットカードか。残念だけど持ってないのよね。でもさ、クレジットカードって便利よね。だって、お金なくても色々な物を買えるんだから。私、大人になったら絶対に持つんだ。

B子 確かに、便利よね。でも、計画的に買わないと大変なことになるみたい。よく新聞にでてるじゃない。それに、クレジットカードを落としたら大変だしね。

A子 そうね。でも、私も大人になったらカード持ちたいな。何となくカッコいいじゃない。

B子 そうね、それに、大金を持ち歩くのは危ないしね。そうそう、もとに戻るけど、C子、お金ないのにどうやって買うの?

C子 簡単、簡単。通信販売で買うのよ。電話一本でいいのよ。楽、楽。 — A子とB子は顔を見合わせる。 —

B子 そう、家の人に相談しなくていいの? 両親の許可がなくても買えるの?

C子 平気よ。電話してしまえばいいのよ。 — A子とB子は顔を見合わせる。 —

B子 本当に、そんなに簡単なの?

A子 でも、本当に、お金、都合つくの?

C子 大丈夫よ。後払いだから、来月のお小遣いで払いばいいのよ。

A子 もし、払えなくなったらどうするの?

C子 いざとなったら、お母さんに謝って、払ってもらえばいいのよ。 — A子とB子は顔を見合わせる。 —

C子 平気、平気。そんなに心配しなくても大丈夫だから。

B子 でも、通信販売って、何となく恐くない?

C子 え、え、どうして?

B子 だって、このカタログと違っていたらどうするの?

A子 そうよねえ。やっぱり、自分の目で見て買ったほうがいいと思うわ。

B子 この間、良子の家で通信販売を利用したら、カタログと違う物がきて大変だったみたい。

C子 平気よ。今までに、何回か利用したことがあるけど大丈夫だったわ。それに、いちいち出かけるのめんどくさくない。

B子 そうかな? — 間 — でも、お金で払ったほうがいいんじゃない。払えなくなったら困るよ?

C子 A子もB子も、やあね。 — 間 — 大丈夫だから。それより、電話かけるから下までつきあってよ。

A子 そうだよえ。大丈夫、大丈夫。

B子 みんなで行こう。行こう。

全員 よし、行こう。

6 研究のまとめと今後の課題

公民的分科会では、「生徒の思考力・判断力を育て、主体的な学習活動を促す指導法の工夫」を主題として研究を進めた結果、次の点を明らかにすることができ、また、今後の課題が明確になった。

(1) 研究のまとめ

ア 生徒の思考力・判断力を高めるためには、ディベートによる学習は効果的であった。

討議の準備を通して、論題について様々な角度から分析し、自分の意見を構築しようとする主体的な態度を育成することができた。また、討議の実践を通して、自分とは異なる考えや意見、立場を理解することによって、新しい視点から論題に迫れるようになり、思考力・判断力を高めることができた。

同時に論題に対する自分の意見を構築するために、資料や情報を収集し、必要なものを選択する能力も育成できる。ディベートによる学習を通して、民主的な社会においては諸問題の解決方法として討議が重要な役割を果たしていることに気付かせることができた。

イ 消費生活を劇化することによって、消費者問題への興味・関心を高めることができ、論題「ものはクレジットカードで買うべきである」を導くことができた。

日常生活の会話の「劇」から、現代の消費生活にかかわる問題点を発見させることによって、論題を生徒の発言から導き出せた。そのため、ディベートへの意欲が高まり、審判にあたる生徒も、真剣な態度でディベートに参加できた。

ウ ディベートによる学習を取り入れる場合は、論題の設定や指導計画を十分に検討することが大切である。

ディベートの論題は生徒の興味・関心を引くものを選ぶと同時に、資料・情報が生徒に集めやすいものを設定することが大切である。また、指導計画の中に、ディベートに対する準備時間を取ることは有効である。そのために4時間扱いにした。また、生徒は情報の収集や資料の作成などを放課後の時間に行うことになるので、活動時間を確保し、教師が適切な援助・助言をすることが大切である。

(2) 今後の課題

本研究を通して、主体的な学習活動を促す指導法としてディベートは有効な指導法であることがわかった。今後は様々な単元でディベートによる学習を取り入れたい。そのためには年間指導計画、単元の指導計画、指導内容を工夫することが大切である。また、ディベートを行っている時の教師の役割や評価方法をさらに研究する必要がある。